神戸市との協定により救援物資を供給する

コープこうべ六甲アイランド工場

1　地震発生時の状況

この工場では、パン、うどん、こんにゃくなど多品目の食品を生産しており２４時間体制で稼動している。地震の発生した時間には約１５０人の従業員が工場で働いていた。

地震によるすさまじい揺れにより、工場内のキャスター、食品、ロッカー等が散乱した。地震がおさまって２分後に守衛室より非常放送で「全員直ちに、工場の外の守衛室前に集合せよ。」と機敏な指示があった。

食品の生産ラインに入っていたために、ボイラー、パンのかまなどの火種が至る所にあるため、火災危険も大きく「火が出たら最後だ！」という危機感があった。しかし、施設の担当者は迅速に工場内のガス供給並びに電源の停止を行って火災を未然に防止した。

工場内は自家発電設備の起動により照明が点灯していたため明るかったが、ラインの蒸気配管の損壊により蒸気が噴出し、その蒸気により前方が見えない状況であった。そのような状況下で従業員のうちの１名が負傷した他、２名の従業員がエレベーターに閉じ込められた。

2　神戸市との緊急物資援助協定による活動

コープこうべは、昭和４８年の石油ショックを契機に神戸市と緊急物資援助協定を結んでいたが今回の震災により初めて、この協定に基づく活動が実施された。

１７日の午前中に、神戸市災害対策本部から被災者に対する救援物資の支援要請があった。工場内の流通センターでは、市内の各店舗へ出荷する予定の食品等が沢山あったので、それを救援物資とした。

工場長の指示により、市内の各区役所へ４トントラック８台によって配送を開始した。職員のうちには、家族の安否がわからないまま出発した人もいた。トラックは１７日の午後には出発したが交通渋滞のために工場に戻ってきたのが、工場を出発してから３０時間後になってしまった職員もいた。

また、ヘリコプターによる救援物資の搬送も、延べ１２回に至ったほか、地域の共同購入センターのトラックを延べ５００台運行して、各区役所から各避難所への食料搬送を実施した。

3　教　訓

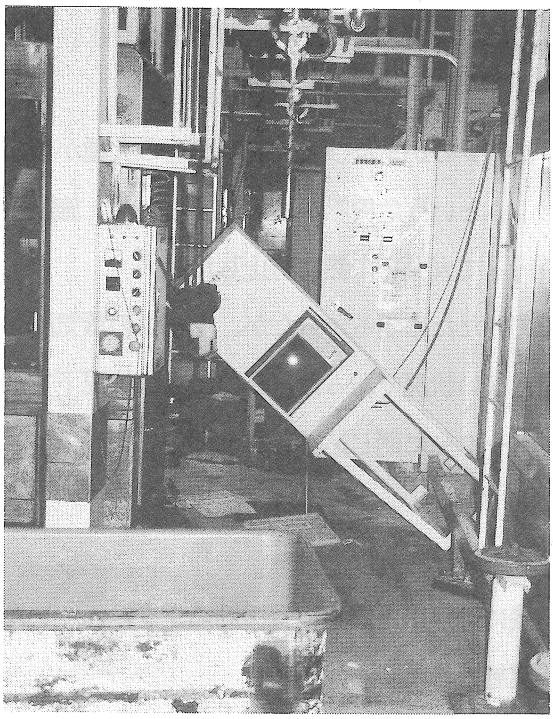
(1)　蒸気が充満する中で１５０名の従業員が全員スムーズに避難できたのは、日頃の消防訓練の成果であったと、工場長は述懐していた。（平成６年中に７回実施している。）

(2) 火災危険が大きい状況の中で、火災を未然に防いだ技術担当者の適切な行動は賞賛に値する。

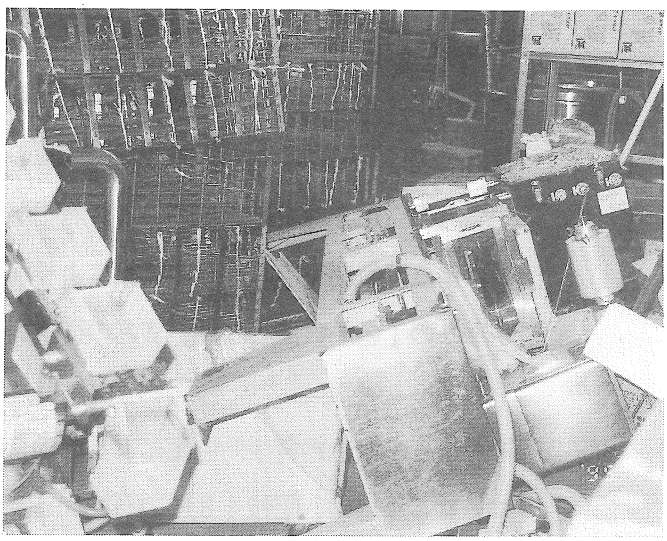
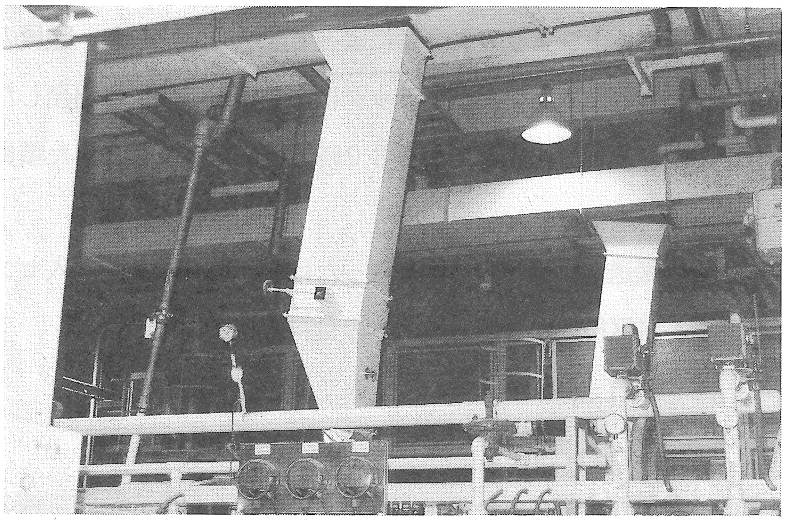
(3) 今後は、工場内の施設、器具等の固定化を進めていく必要がある。

(4) 神戸市との緊急物資援助協定による食料搬送は、数万人の神戸市民の命を守った。家族の安否を心配しながらも市民のために食料を搬送したコープこうべ並びに関連企業の関係者の皆様には頭が下がる思いである。

菓子パン製造ラインの機器の破損状況



食品製造ラインの機器の散乱状況



菓子パン製造ラインの排気ダクトの破損